

＜学校経営方針の重点＞	1	学力向上	2	健全育成	3	心の教育	4	その他（教育活動を支える重点）
-------------	---	------	---	------	---	------	---	-----------------

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
1 学力の向上	生涯にわたって、学び続ける力をつけるために	●研究テーマ「主体的に学習に取り組む生徒の育成」 ●学習の質を高める授業づくり ●主体的・対話的で深い学びの追求	単元指導計画の充実（家庭学習の定着に向けた課題設定）	A	各単元の目標を達成するために、より効果的な学習課題の明示を意識した単元指導計画の作成が進んだが、家庭学習と繋げることができなかった。	今年度より導入した単元指導計画が記載された指導略案の活用を進めるとともに、授業内容が主体的な学びとして、家庭学習に繋がるよう工夫をしていく。	A	個人の自信につながる家庭学習を定例・定量化させる工夫をしてほしい。家庭でもフォロー可能なやる気を引き出すきめ細かな指導が出来ると良い。主体的な学びを深めるためには、個別指導を充実させる必要があると思うが、個々の生徒の学習状況に差異があるので、進めていくには、教員は大変だろうと懸念する。 また、教員全員で得意とすることを学び深める機会を設けることも授業改善に繋がるのではないか。有効活用が進んでいるICTのスキルアップにも引き続き努めてほしい。	今後も校内研修を軸に組織的に学力向上を図るために授業改善を進める。特に、主体的に学習に取り組む態度を育成するために、好きや興味をもたせられるよう個別最適な学びを推進していく。令和7・8年度の青梅市教育研究指定校を見据え、準備委員会を組織する。また、家庭学習に意欲的でない生徒への働きかけを工夫するなど研鑽を積む。
			授業の基本的な構成の見直しと開発	B	アンケート調査では、授業で自らの考えを深めたり広げたりしていると肯定的な回答した生徒は8割いるので、授業改善の成果と捉えたい。	今後も生徒の学習状況を踏まえながら、めあての明示・教え込む場面・対話的な学び・振り返りなどスタンダードとなる構成を確立していく。			
			主体的な取組を引き出す課題の設定と発問の工夫	B	校内研修会を通して学んだ適切な課題設定や発問の工夫を日常の授業に生かすことができたが、主体的な学びを深める中で表れてくる個々の進捗状況の差への対応が十分とは言えない。	主体的な学びを深めるためには、「個別最適な学び」を進めるための「個に応じた指導」のスキルアップを図る必要がある。専門家から学ぶ機会を設ける。			
			三つの内言「他に考え方はないか。分かりやすいか。本当にこれでよいか。」の育成	B	教科以外の場面である特別活動、総合的な学習の時間の取組みについての意識が低かった。また、教室掲示はあるものの、授業時の活用が不十分である。	教室掲示は、貼りっ放しを避け、振り返りなど、内言を問う場面で黒板に掲示するように努めたが、不十分だったので、進路研修部の主導で改善する。			
			ICTの効果的な活用と視覚化の工夫	A	デジタル教科書や資料の提示をはじめ、生徒の実態に合わせてICTの有効活用を進めることができている。今後も充実させていく。	校内研修会などで効果的だった場面を共有し今後に生かしていく。また、他校などのICT研究発表会などに積極的に参加し、還元研修を実施していく。			
2 社会性の育成	安心して学び、自己有用感を高めるために 「振る舞い輝く！一中生」	●励まし合える人間関係の構築 ●マナーをはじめとした常識・良識の育成 ●人権尊重教育の推進	生徒会活動・学校行事等の充実	A	スローガンの前半部分「振る舞い輝く！一中生」は全校生徒に浸透し、日々の学校生活の原動力、行動の指針になっている。今後も具現化を進める。	スローガンの後半部分「SDG s 青一 ver.」について生徒会の各委員会が共同し、一つ一つにGoalを心がける取り組みが出来ると良い。また、小学校とも連携を図る。	A	多くの生徒が係活動に積極的に取り組んでいるようなので、引き続き充実してほしい。ボランティア活動が盛んになってきていて素晴らしいが、消極的な生徒への働きかけを工夫できると良い。 また、SNSの利用状況の把握やいじめの発見は、見えにくい場合も多いので、今後も未然防止に努めてほしい。特に「SNS一中ルール」を形骸化させないこと、生徒発信のいじめ防止にも力を入れてほしい。	ボランティア活動が軌道に乗ってきたので、より確かなものとするためにシステムづくりを進める。消極的な生徒へは効果的なアプローチを行う。 また、「SNS一中ルール」は、クラス討議の時間を設け、生徒目線で改定していく。いじめについてもより生徒会の力を活用し、防止に努める。
			ボランティア活動の推進	A	担当を決め、システムを構築したことで、流れや内容が明確になり、全校生徒の3割が何らかの学校内外のボランティア活動に参加したが、参加に戸惑っている生徒もいるので、背中を押してあげたい。	今年度の流れをもとに、年間の見通しがもてるので、更にマインドを広げる工夫が必要である。意欲を高めるための顕彰方法などについても検討し、組織化を図っていく。			
			情報モラルの育成	B	全校朝礼や学年集会などの機会を利用して、SNS一中ルールを徹底することができた。現時点では、SNSを巡っての大きなトラブルは発生していないが、常に不安が付きまとっている。	引き続き長期休業の前にしおりを使用して、SNS一中ルールを繰り返し確認していく。ルールが形骸化しないよう学級などで話し合い活動に取組み、生徒目線の注意喚起を行っていく。			
			いじめ対策委員会を基軸とした「いじめゼロ」の推進	A	毎週、SCを交えて「いじめ対策委員会」を開催することができ、組織が機能している。反面、生徒会の力を十分に活用できていない。	今後も学校生活アンケートや日々のデイリーライフを活用して早期発見、即解決に努める。また、生徒会発信の「いじめゼロ」を強化できる取り組みを実行する。			
3 豊かな心の育成	広い視野と感性・想像力を高めるために	●多様性を尊重する心の育成 ●「言葉の力」を中核とした教育活動の推進	インクルーシブ教育の推進	B	特別支援部の発信により、教職員の意識は高まってきた。また、道德教育でLGBTQを題材にしたり、共同体体育や行事を通して、インクルーシブ教育を進めたが、広がっていない点に課題がある。	専門的な知識が必要なので、講師を招聘して指導方法を学ぶ機会を設けたい。保健体育以外にはG組との共同学習の機会がほとんどなかったので、他教科をはじめ出来ることを増やしていく。	A	「3ない運動やSDG s」の取組みについては、ポスターの完成から弾みをつけて、生徒と教員が一体となって、目標の達成に向かえると良い。更に朝読書の継続や道德教育の充実にも力を入れてほしい。 また、別室登校支援員の配置により、サポート体制が進んでいることは評価できる。今後は、共同学習の機会を増やすなど、インクルーシブ教育を推進してほしい。朝読書については、小学校と連携して更に充実できると良い。	ポスターの完成は、あくまでも通過点であり、SDG sの項目や3ない運動の精神を行動に現すことに重点を置き、生徒会とともに達成度を検証する方法を模索する。 また、インクルーシブ教育については、本校の環境要因（クラス数・生徒数）の変化を視野に入れて可能な限り導入する。
			道德教育の充実	B	各学年がローテーションで道德授業を行うなど、教員が一丸となって道德教育の重要性を理解できている。意欲的でない生徒への支援方法の検討が不十分である。	今後も道德授業を中心に全ての教育活動の場面において道德教育の充実に取り組んでいく。また、生徒自身の言葉で自らの考えを述べる機会を大切にしていく。			
			朝読書の充実	A	生徒達に積極的に朝読書に取組もうとの雰囲気があり、概ね8時20分から開始できているが、一部意欲的でない生徒もいる。	更に生徒会図書委員会を中心に朝読書をはじめとした読書活動を推進していく。意欲の低い生徒には、一緒に図書室に行くなど感化に努める。			
			「3ない運動」×SDG s（青梅一中 ver.）生徒会活動の推進	A	生徒会本部を中心に発信力が高い。また、スローガンを掲げ、ポスターが完成したことで意識が高まっているが、達成の度合いが検証できていない。	生徒会の力を最大限に生かしながら、呼びかけを継続し、一中生の行動指針ともなるポスターの具現化を図る。また、各委員会毎に達成度を検証する仕組みをつくる。			
4 その他	教育活動を支えるために	●一中校区とのつながりの堅持 ●働き方改革の推進	PTA及び地域との絆の再構築	A	青梅大祭や合唱祭のPTA合唱、ボランティア活動などを通して、絆の再構築が進んだ。民生委員との情報共有も図ることができた。	今年度の成果を来年度も継続できるようにする。今後も地域やPTAの皆様に応援していただけた一中を目指し、連携を深めていく。	A	PTA・地域・学校の良い関係が継続することを望む。 一人一人の生徒と向き合う教員の働き方改革を進めることは難しいが、校務に優先順位を付けるなど少しでも進めてほしいと願っている。地域とのつながりは、ボランティア活動の充溢により推進されているので、更なる広がりを期待したい。	ボランティア活動の推進などを軸に今後も保護者や地域との絆の再構築を進めていく。教員の働き方改革には課題が多いが、残業時間の削減目標を数値化するなど、改革の「見える化」に取り組む。
			教育の質を落とさない働き方改革の推進	B	定時退勤日を決めるなど、少しずつ意識が芽生えてはいるが、仕事量が減っているとは言い難い。働き方改革が十分に進んでいないのが現状である。	互いに勤務時間を過ぎた校務依頼はしないことや月の残業時間の削減目標を数値化するなど具体策を年度当初の申告で確認する。			
			研修（研究と修養）の充実	A	OJTを中心に若手教員への研修が充実した。また、講師を招聘しての校内研修会も有意義であったが、組織的な研修を行う時間的な余裕が不足している。	研修会は必要不可欠であるが、費やす時間に限りがあるので、個々の研修を充実させる必要がある。働き方改革の視点も重要であり、十分に検討していく。			